

平成29年度第2回向日市廃棄物減量等推進審議会 会議録要旨

- 1 日 時 平成30年3月20日（火）午前10時から正午まで
- 2 場 所 向日市役所 大会議室
- 3 出席者 （委 員）山川肇会長、河野一武副会長、藤村麻里子委員、
安田晴子委員、佐々木容子委員、安田まゆ委員、
守井直樹委員、高野中也委員
（事務局）市民生活部 山田部長
環境政策課 日下部課長、山口係長、中村主査
- 4 欠席者 （委 員）安田久一委員、山本英毅委員
- 5 傍聴者 1名
- 6 会議概要
議事内容
 - (1) 一般廃棄物処理等の現状報告（前回からの報告事項）
可燃ごみ、分別収集、生ごみの減量に関する施策の取組状況及び今後の課題について、事務局から説明を行った。
 - (2) 分別収集について
展開検査の実施報告及び分別に関する広報等における周知・啓発について事務局から説明後、意見交換を行った。
 - (3) 古紙回収について
京都府内の古紙回収状況について事務局から説明後、意見交換を行った。
 - (4) 施策の進捗状況について
向日市一般廃棄物処理基本計画に掲げる施策の進捗状況について事務局から説明後、意見交換を行った。
 - (5) その他

【要 旨】

－議事内容「(1) 一般廃棄物処理等の現状報告（前回からの報告事項）について」－

会長 全体的に国と比べて資源化量が少なくなっているが、向日市はごみ排出量自体が少ない。比例しているわけではないが、資源化量が少ないことが必ずしも悪いわけではない。

委員 昔から乙訓地域の分別収集は府内でも比較的優秀な方だと思う。

－議事内容「(2) 分別収集について」－

委員 分別収集が月2回のため、その他プラスチックが大量に溜まってし

まう。分別ステーションを増やす計画はないか。また、リネットジャパン(株)との協定とあるが、市内を回っている金属の無料回収は利用してもよいものなのか。古紙類の区分についても、どの範囲の紙が古紙類に当たるのかがよくわからない。

事務局

分別ステーションの回収場所や回数を増やすことについては、費用面が上がり、人手も必要になることから現時点では難しい。金属の無料回収については、適正に処理されているか不明であることから、市のルールに基づいて適正な処理をお願いしたい。古紙類の区分については、自治体によって異なるが、新聞紙、ダンボール、雑誌類、ティッシュやお菓子の箱などが古紙類に含まれている。ラミネートなどの加工が施されている紙は古紙類に含まれないとしているようである。

会長

古紙類は大きく、「新聞・ダンボール・その他(雑紙)」の3つに分けられる。新聞・ダンボール以外で、雑紙に当たらないものとして、加工されている複合紙、汚れの付着した紙、臭いが付いている紙が挙げられる。

委員

展開検査の資料にあるように、事業系ごみ等の混入を減らすには、袋の色を半透明や透明にするべき。また、仕事等の関係で時間内に分別ステーションを利用できない方々に対する救済措置としては、回収時間の緩和も必要である。

委員

有料化や袋の色を指定することでその他プラスチックが増えていくので、拠点回収の充実を図ることも必要だと思う。

委員

マヨネーズ等の食品チューブはどこまで綺麗にしたらよいか。分かりにくい部分はもっと広報等で啓発すべきではないか。

委員

どうしても汚れが取れないものは可燃ごみとして処分した方が逆に環境にやさしい。また、広報・啓発の際に紛らわしく混乱を生む標記は改めた方がよい。

委員

施設の立場から申し上げると、容器包装プラスチックは手選別をしており、汚れていないものだけをリサイクルに回している。手選別には時間、労力を要することから汚れが取れないものについては、可燃ごみに回してもらえるとありがたい。

－議事内容「(3) 古紙回収について」－

委員

古紙類の線引きが非常に難しい。そのことを踏まえると、拠点回収を実施するのであれば、誰が見ても分かるようなイラスト付きの看板を設置するなど工夫が必要ではないか。

委員

集団回収に対する奨励金制度を実施するのであれば、適切な認可を

受けた収集業者に依頼し、その報告資料として計量票を付けてもらうような仕組みにすべきである。そうすることで、正確な集団回収量を把握することができ、適正な奨励金を交付できるのではないか。また、古紙の中でも雑紙は分類が多岐に渡り判別が難しい。まずは分かりやすい新聞や雑誌などから回収を始めるべき。

委員 奨励金の有無よりも、溜まると困るものなので、定期的に回収してもらえるだけでもよい。ただし、拠点回収となると高齢者の方々が持っていけない可能性があるので、方法については検討が必要である。

委員 審議会の委員とは違い、一般市民の方々は、ここまでごみのことを考えていないと思う。そのため、看板や広報で、なぜこの方法で捨てないといけないのか等、分かりやすく大事な部分を強調するような啓発を行っていくことが必要ではないか。

委員 一般の方々が急にごみのことを考えるのは難しい。それを踏まえると、学校教育の中で子どもの時から学ぶ機会を設けることが必要ではないか。

事務局 教育委員会が小学校4年生を対象に乙訓環境衛生組合の施設見学を実施しているが、現時点では、環境政策課と教育委員会が連携した講座等を行っていない。

委員 2市1町とも、5～6月に小学校4年生が乙訓環境衛生組合の社会見学に来ていただいている。

事務局 今後、古紙回収に関する取組を検討していく中で、既に民間のちり紙交換に出すことが根付いていると思われるが、奨励制度を導入する効果は見込めるか。

会長 展開検査の結果では古紙は全体の7%であり、一般的な他自治体よりは少なく見受けられる。ちり紙交換でどれだけ回収しているのかは調べてみる必要がある。

委員 安定性を求めるのであれば、奨励金制度を設けることは効果的だと思う。古紙回収業者も無料では回らないし、古紙の売却価格に対する浮き沈みが激しいので、安定量の確保が見込めるようにする意味では効果的である。

－議事内容「(4) 施策の進捗状況について」－

委員 まずは、中身が見えるごみ袋の指定が先決ではないか。現在、分別できていない方々もしっかり分別するようになるのではないか。

委員 向日市は可燃ごみを各戸収集しており、戸建ての方々の分別マナーは比較的良い方だと思う。ところが、共同住宅等については、マナー

が悪いところも見受けられる。それらを踏まえると、中身が見える袋の色を指定した方がよい。

委員 中身が見える袋を指定することで、本当に分別効果は上がるのか。ちゃんと分別している人からしたら、負担にしかない。

会長 袋を指定していない所と指定している所、有料化している所では、ごみ量について統計的に有意な差が表れているという研究結果が出ている。

また、指定ごみ袋の種類としては、「色の指定のみ」、「自治体が指定しているが手数料は含まれていない」、「自治体が指定し、手数料も含まれている」ものがある。

委員 生ごみの水分を切るのに対して、何か市の方で水切り器の推奨はしていないか。

事務局 次年度に、水切り器の購入予算を確保している。配布方法については検討中である。

会長 水切りをすると生ごみは5～10%ほど重量が減る。乾燥させるともっと減る。

会長 他にご質問、ご意見はよろしいか。それでは、終了時間となったため議事進行を事務局にお返しする。

事務局 次回以降の審議会については、向日市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について報告するとともに、計画期間満了が平成33年度に迎えることから、計画の改定に向けて新たな目標値の設定や施策の検討について意見を伺いたい。また、次回の開催は6月から8月を予定している。日程は改めてご案内する。